

アワヨトウの異常発生情報について

6月26日に、隠岐の島町五箇の水稲でアワヨトウ幼虫の加害が確認されました。水稲での発生は隣接するイネ科牧草で多発生した幼虫が水田に侵入して加害したものです。その後、牧草、ハトムギ若葉での発生情報があり、現在、出雲市、松江市、東出雲町、奥出雲町、江津市で発生が確認されています。今後、イネ科作物ではアワヨトウの発生が懸念されますので、十分注意してください。

記

【発生生態】

成虫が現われるのは5月から6月中旬にかけてのころで、季節的な長距離移動によると推定され、突発的な大発生は海外飛来成虫が発生源と推測されている。飛来後3～4世代経過すると考えられ、休眠性はなく温暖地ではムギ、イタリアンライグラスなどイネ科植物の株元で主に幼虫態越冬する。

卵は枯れ葉、刈り株、葉鞘に数十粒～百十数粒ずつかためて産みつける。卵期間は7日から10日。

若齢幼虫の体色は淡黄緑色、成長するにつれて灰緑から黒緑色まで体色変異があるが体側に明瞭なタテスジが通り、頭部はミカン色で黒い八の字形の斑紋がある。老熟幼虫の体長は45mmぐらいになる。幼虫期間は約1か月。

老熟幼虫は加害株の株元や浅い土中で蛹化する。蛹期間は10日～14日。出穂期前後の水稲に発生したときは、葉鞘内側と茎の間に卵を産み、被害も最初は独立して現われ、幼虫の齢期も不ぞろいことが多い。

【防除の留意点】

1. 若齢幼虫期に防除すれば1回でかなりよく効くが、3齢期以降は、虫そのものも強くなるほか、昼間は潜伏場所に深くもぐるため、薬剤が届かなくなり効果が劣る。
2. 幼虫のステージが不ぞろいときは、7日おき2回散布する。株元に十分かかるように散布する。

【アワヨトウに登録されている農薬】

水 稲：ディプテレックス乳剤、粉剤

とうもろこし：ディプテレックス粉剤、トレボン乳剤、アグロスリン乳剤

イネ科牧草：ディプテレックス乳剤、粉剤

アワヨトウの異常発生情報

2009/6/30

発生場所： 隠岐の島町五箇 牧草畑（3ha）隣接水稲（10a?）



①牧草畑から移動し水稲加害

②牧草は刈り取り

刈り取りが虫の移動前か始まってからかは未確認

◎ 現地の対応

①水稲は深水管理

1株目は食害されたが、株間移動ができず大半の幼虫は水没死亡

◎県内での発生情報（6/29現在）

隠岐の島町（水稲）、畜技センター（牧草）、中海干拓（牧草）、揖屋干拓（牧草）、横田、桜江町（ハトムギ若葉）



幼虫頭部の八の字形の斑紋